

ボランティア



発行 (編) 大阪府社会福祉協議会
大阪府ボランティア・
市民活動センター

Osaka

Vol.46
2006 Autumn



特集

趣味と特技を生かした ボランティア活動



大阪府内のボランティアセンター一覧

市町村名	所 在 地		電 話	FAX
北 摂				
池 田 市	563-0041	池田市満寿美町6-23	072-753-8858	072-753-3444
茨 木 市	567-0888	茨木市駅前4-7-55 茨木市福祉文化会館内	072-627-0086	072-627-0434
島 本 町	618-0022	島本町桜井3-4-1 ふれあいセンター内	075-962-5417	075-962-6325
吹 田 市	564-0072	吹田市出口町19-2 吹田市立総合福祉会館内	06-6339-1210	06-6339-1202
摂 津 市	566-0022	摂津市三島1-1-1 摂津市役所西別館内	06-6318-1128	06-6383-9102
高 槻 市	569-0067	高槻市紺屋町3-1-303 グリーンプラザ3号館3階	072-683-2200	072-683-2209
豊 中 市	561-0881	豊中市中桜塚2-28-7 豊中市立福祉会館内	06-6848-1000	06-6841-2388
豊 能 町	563-0101	豊能町吉川187 町立保健福祉総合施設豊悠プラザ内	072-738-5370	072-738-0524
能 勢 町	563-0341	能勢町宿野114	072-734-0770	072-734-2623
箕 面 市	562-0036	箕面市船場西1-11-35	072-749-1535	072-727-3590

河 北				
交野市	576-0034	交野市天野が原町5-5-1 交野市立保健福祉総合センター内	072-894-3737	072-894-3737
門真市	571-0064	門真市御堂町14-1 門真市保健福祉センター内	06-6902-6453	06-6904-1456
四條畷市	575-0054	四條畷市中野新町11-31 四條畷市立福祉コミュニティセンター内	072-878-1210	072-878-6888
大東市	574-0037	大東市新町13-13 大東市立総合福祉センター内	072-874-1082	072-874-1828
寝屋川市	572-0036	寝屋川市池田西町28-22 寝屋川市立総合センター内	072-838-0400	072-838-0166
枚方市	573-1191	枚方市新町2-1-35 ラポールひらかた内	072-841-0181	072-841-0182
守口市	570-0083	守口市京阪本通2-13-1 さつきホールもりぐち内	06-6992-2715	06-6993-0134

河 南				
大阪狭山市	589-0021	大阪狭山市今熊1-85 大阪狭山市福祉センター内	072-367-1761	072-366-7407
柏原市	582-0018	柏原市大県4-15-35	072-972-6760	072-972-6760
河南町	585-0014	河南町大字白木1371	0721-93-6299	0721-93-5299
河内長野市	586-0041	河内長野市大師町26-1	0721-65-0133	0721-65-0143
太子町	583-0991	太子町大字春日963-1 総合福祉センター内	0721-98-1311	0721-98-2111
千早赤阪村	585-0041	千早赤阪村大字水分195-1 保健センター内	0721-72-0081	0721-70-2037
富田林市	584-0037	富田林市宮甲田町9-9 富田林市総合福祉会館内	0721-25-8200	0721-25-8230
羽曳野市	583-8585	羽曳野市誉田4-1-1 羽曳野市立総合福祉センター内	072-958-2315	072-958-3853
東大阪市	577-0054	東大阪市高井田元町1-2-13 東大阪市立総合福祉センター内	06-6789-5550	06-6789-5611
藤井寺市	583-0035	藤井寺市北岡1-2-8 ふれあいセンター内	072-938-8220	072-938-8221
松原市	580-0015	松原市新堂1-589-6 松原市立総合福祉会館内	072-333-0294	072-336-0806
八尾市	581-0018	八尾市青山町4-4-18 サポートやお内	072-925-1045	072-925-1161

泉 州				
泉大津市	595-0026	泉大津市東雲町9-15 泉大津市立総合福祉センター内	0725-23-1393	0725-23-1394
和泉市	594-0041	和泉市いぶき野5-1-7 アイ・あいロビー内	0725-57-0294	0725-57-3294
泉佐野市	598-0007	泉佐野市上町1-2-9 泉佐野市立福祉センター内	072-464-2259	072-462-5400
貝塚市	597-0072	貝塚市畠中1-18-8 保健・福祉合同庁舎内	072-439-0294	072-439-0035
岸和田市	596-0076	岸和田市野田町1-5-5 岸和田市立福祉総合センター内	072-430-3366	072-430-3367
熊取町	590-0451	熊取町野田1-1-8 熊取ふれあいセンター内	072-452-6001	072-452-2658
泉南市	590-0521	泉南市樽井1-8-47 泉南市総合福祉センター内	072-483-0294	072-483-0294
高石市	592-0011	高石市加茂4-1-1	072-265-7600	072-261-9375
田尻町	598-0091	田尻町嘉祥寺883-1	072-466-5015	072-466-8841
忠岡町	595-0812	忠岡町忠岡中2-16-25	0725-31-1666	0725-31-3555
阪南市	599-0292	阪南市尾崎町35-1 阪南市役所内	072-471-5678	072-471-7900
岬町	599-0303	岬町深日3238-24	072-492-0633	072-492-5701

〈参考〉 大阪市社会福祉協議会 大阪市ボランティア情報センター TEL 06-6765-4041
堺市社会福祉協議会 ボランティア情報センター TEL 072-232-5420

趣味と特技を生かした ボランティア活動



誰でもひとつやふたつは趣味や特技を持っています。スポーツが好き、音楽が好き、パソコンが得意、囲碁・将棋が趣味、工作や手芸ならお手のもの、マジックなら子どものころからやっているよ、など。

そんな趣味や特技を、ボランティア活動に生かしている人は少なくありません。

ヨットが好きだから、障害者と一緒にセーリング。カラオケが好きだから高齢者の施設で歌を披露する。囲碁が得意だから一人暮らし老人宅で出前対局、アウトドア派だから地域の子どもの会のキャンプリーダーに…。ボランティアには案外、趣味や特技を生かしたものがいろいろあります。それは長続きさせるコツの一つでもあり、やっている自分も楽しめるというものです。

また、「ボランティアはやってみたいけれど何をすればいいのかわからない」という人にとって、始めやすいのが「趣味や特技を生かした活動」とも言われています。

今回は「好きなこと」「得意なこと」でボランティア活動に取り組んでいる皆さんをご紹介します。

人形劇で、子どもたちに 感動をプレゼント

ほぼ同年代の主婦グループ「ザッツ」。
人形はすべて手作りです



感情移入してくれる 子どもの反応が励み

会の発足から今年で24年目になるという「人形劇ザッツ」。もともとは箕面市にある箕面天使幼稚園のお母さん方の母の会の活動として始まり、しかし今では池田市や川西市からも仲間が加わり、地域の枠をこえた活動に広がっています。

年間の公演回数は20〜25回。それを10月から3月に集中して行うので、この半年間は毎週のように公演していることになります。

「幼稚園や保育所、障害児・者施設、あとは小学校で低学年の子どもたちに見てもらうケースが大半」とのことですが、「子どもたちとの生のふれあいがある」「感情移入してくれる子どもの反応が励みになります」とメンバーの皆さん。

仲間は総勢10名。設立当初からのメンバーは代表の大村加恵さんと森久美子さんの二人だけですが、一番新しいメンバーでも「入団して10年」と言いますから、仲間の結束はかなりのものです。「全員が、子育てを終えた40〜50代の主婦。でも女子高の文化部のノリで、ワイワイガヤガヤ楽しくやっています（笑）」と口を揃えます。



公演は半年間に集中していますが、だからと言って4月から9月の半年間は活動を休止しているわけではありません。この期間は「新作の人形づくりと練習の6ヵ月間」とのこと。毎週金曜日には練習会場の箕面市障害者福祉センター「ささゆり園」に集まって稽古に余念がありません。

24年も続いているので、「ねずみの嫁入り」などレパートリーはいくつかありますが、「年に一つは新作をつくる」のがザッツのモットー。「子どもたちは内容をよく覚えていてるので、重複を避けるためには年に一つは新作をつくらなく」ということです。

ボランティアは楽しくなくては！

ほぼ同世代の女性ばかりの集団です。から「ときには舅、姑の愚痴も聞いてもらえるのでストレス解消になるんです（笑）。しかし「観客の反応」が活動を支える大きなエネルギーになっているのは間違いありません。

高齢者の福祉施設で公演することもあり、そんなとき、めったに口をきかない認知症のお年寄りが笑顔でポツリと「楽しかったね」と話されたり、なかには涙を流して感激してくださったり…。あるいは毎年のように訪問する保育所では、公演後、子どもたち



からお礼の絵手紙が送られてきたり、また病院の院内学級を訪問することもありますが、「子どもより私が元気をもらいました」とお母さんからお礼を言われたり…。と、「活動のやりがいを感じる場面」はさまざまあるようです。

「そんなときはメンバー一同、本当にこの活動をしていてよかったね、と話しあうんです」。

ちなみに劇団名の「ザッツ」は「何をしていても雑だから（笑）」とのことですが、ともあれ、あつからんとした雰囲気、このグループが長続きしている大きな要因かもしれません。すでに「来年2月まではスケジュールが詰まっています」という売れっ子人形劇団ザッツ。「ボランティアは楽しくなくっちゃあ」を地でいく素敵なグループです。

大東市〈夢楽らいぶ一座〉

年間130回以上 福祉施設で「出張ライブ」



自分たちの歌を喜んでくれるなら、どこへでも出かける

さまざまな高齢者・障害者の福祉施設や老人会などで歌とギターによるライブを続けている「夢楽らいぶ一座」。大東市にあるフォーク喫茶を拠点に活動する4人の若者のバンドで、ボランティアで出張ライブを行っています。

活動をはじめたきっかけは、ある病院の院長から、「リハビリになる歌をつ

くってほしい」という依頼が舞い込んだことでした。「心からありがとう」というオリジナル曲に、簡単な身ぶりをつけて歌ったところ、患者さんも一緒に盛り上がったといいます。「僕らの歌を喜んでくれる人たちがいる。一般のライブハウスで演奏するのは違う、うれしく新鮮な経験でした」と、座長の山野具則さん。

大東市内の高齢者の福祉施設を中心に活動しているときに、大東市社会福祉協議会の存在を知ってボランティア登録。活動範囲をすだいに広げ、平成15年には北河内7市、16年には大阪市内24区、17年には大阪府内全43市町村の社会福祉協議会を回って自分たちのことをPRし、すべての市

町村で「出張ライブ」を行いました。いまでは年間130回以上もライブに出かけるという活躍ぶり。とくに「敬老の日」がある9月は出演依頼が殺到し、20回以上も活動するといいます。4人のメンバーは、早朝や夜間のアルバイトをしながらボランティア活動を続けています。

ライブは僕たちの人生修行

「いろいろな人との出会いが僕たちの

人生修行になっているから、おもしろくてやめられない（笑）。ライブの合間に戦争中のことや苦勞話を聞かせてもらったり、人としてのやさしさに触れたり。ずいぶん視野が広がって音楽にも幅ができたと思います」と、山野さんは話します。

「夢楽らいぶ一座」には、大きな夢があり、それが精力的に活動を続ける原動力になっている様子。その夢とは紅白歌合戦に出場すること。「何度か訪問している施設では、『いつ、紅白に出るの?』と聞かれて困るのですが（笑）、紅白出場は僕たちの夢であるだけでなく、いまでは歌を聞いてくれたみんなの夢にもなっている気がします」と、リードギター担当の内田充さん（25歳）。

笑顔いっぱい

ライブが人気のグループですが、活動当初は拍手もなく、落ち込んだ時期もあったとか。「高齢者」とどう接したらいいのかかわからず、「さあ、おじいちゃん、歌いましょうね」と、まるで小さな子に接するような話し



大東市社会福祉協議会の村尾空見子さん



内田亘さん（28歳）

植村亮介さん（26歳）

山野具則さん（32歳）

内田充さん（25歳）

かたをしていたんです。でも自分が年寄りになったときこんな風に言われるのはイヤだなと気づいて、普段通りに話すようにしたところ、喜んで聞いてもらえるようになりました」と、山野さん。

とにかく元気な4人のメンバー。これからも多くの人に音楽の楽しさを伝えてくれることでしょう。

「本」の楽しさを 子どもたちに伝えたい



泉佐野市内の小学校で開かれたおはなし会

小学校や幼稚園で、
年90回以上もおはなし会を開催

「むかし、むかし、あるところに…」と、昔話の語りを練習する抑揚のある声が部屋に響きます。泉佐野市の中央図書館で行われている、おはなし会「ルピナス」の定例会。月2回集まって暗唱した民話などを練習し、本番に備えています。

「本が大好き」という、30〜70歳代の



おはなし会ルピナスのみなさん

女性約15人が活動する同会。小学校や幼稚園、公民館行事などで、子どもたちにおはなしや読み聞かせ・紙芝居・手あそびなど、年90回以上も公演をしているボランティアグループです。

市内5カ所の小学校で1年生から6年生までの全クラスを対象にした活動では、2〜3人がグル

ープを組んで、おはなし会を開いています。毎回、「お祭り」「いろ」「海」などのテーマを設定。そのテーマにふさわしいおはなしや読み聞かせ、本の紹介などを、時間配分を考えながら約45分間にまとめて行っています。

「私たちのなしをみんな集中して聞いてくれる。

それが何よりの喜びです。

子どもたちから元気をもらえる

のもうれしい」と、代表の岩城和

子さん。おはなし会の感想を子どもた

ちにあえて求めることはし

ていないそうですが、その

表情を見るだけで、十分に

伝わってくると思います。

本を読むのが苦手な子ども

でも、おはなしや読み聞か

せは大好き。この活動を通

じて、少しでも本に親しみ、

豊かな気持ちを育んでほし

いというのがメンバーの共

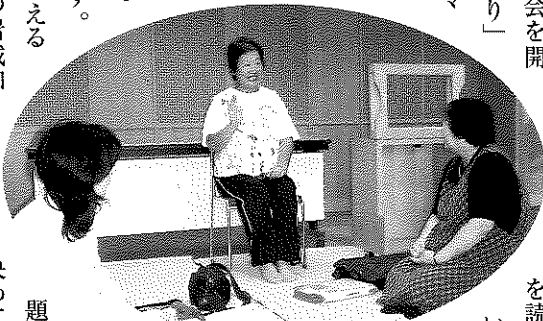
通した願いです。

読書の楽しさを

知ることは、

一生の宝になる

「私たちはまだ文学少女のしっぽをつけているので(笑)、もっといろいろな本



を読んで、本の楽しさを伝えたいと思っています。そのため

にはまだまだ勉強しなければ」と、メンバーのひとり池崎万里さん。

おはなし会では、「選

書がいのち」といわれ

るくらい、どんなはな

しや本を選ぶかが重要

だといいます。そこで子

どもの年齢や季節などに

配慮しながら、それぞれが

題材を持ち寄って話し合っ

て決めています。ときには白熱

した議論が交わされることも。長く

読み伝えられている名作や、毎月数多

く出版される新刊に目を通したり、「話

す」「読む」力を身につけるための研

修会にも出かけます。さらに、絵を描

いておはなし会に使う手づくりの小道

具類を製作するなど、いくら時間があ

定例会でおはなし会の練習をするメンバー

活動してくれるメンバーを募集中です。

泉佐野市内には、「ルピナス」を含め

て3つの子どもの本に関するサークル

があり、「泉佐野子どもの本連絡会」を

つくって互いに情報交換。共同で催し

を開催するなどの活動も行っています。

メンバーは保育経験者や子育てを終

えた主婦などさまざまですが、「読書の

楽しさを知ることは、一生の宝になる」

と話す皆さん。これからも本の世界の

すばらしさを多くの子どもたちに伝え

ていってくださることでしょう。

八尾市〈木村秀子さん〉

絵手紙の指導を通じて 心を繋ぐお手伝い

一枚の絵手紙が
難病患者の心をほぐすきっかけに

ブドウ、ナシ、栗など季節の果物や花を見ながら、熱心に絵筆を握る高齢者の皆さん。八尾はあとふる病院の通所リハビリテーション室で、月1回、開かれている絵手紙教室です。その指導をしているのが、八尾市社会福祉協議会の個人登録ボランティアの木村秀子さん（64歳）。笑顔で一人ひとりに語りかけながら、描き方などを教えています。

以前、書道や俳画を習ったことのある木村さんですが、7年ほど前、通信講座で絵手紙を勉強していくうちに、すっかり夢中になったといいます。そんなころ、難病患者の話し相手になる、おはなしボランティアをしていた木村さん。ある患者さんがなかなか打ち解けてくれずこまっていたとき、思いついて「お元気ですか」と書いた絵手紙を出したところ、「手紙をもらってうれしかった」と言われ、その言葉に感激。「一枚の葉書が心をほぐすきっかけになるなんて、絵手紙の力はすごい」と思い、より多くの人に広めたいとボランティアで指導するようになりました。



木村秀子さん



木村さんの作品

書き上げた瞬間の 笑顔を見るのが楽しみ

「下手でいい、下手がいい」といわれる絵手紙。すべてぶっつけ本番、下書きをせずに一気に書き上げます。「真っ白い紙を目の前にすると、最初はちょっとドキドキしますが、無心に描いていくと、だんだんさわやかな気分になるんですよ。絵なんて何十年も書いたことがないと言う人も、いざ、やってみると皆さん夢中に……。できあがったときのうれしそうな表情を見るのが大好きです」と話します。

八尾はあとふる病院では、約15人が絵手紙教室に参加し、思い思いに絵筆をとっています。ある男性は栗を2つ描いて、木村さんに手伝ってもらいながら、「いつもありがとう」と書き添えました。聞けば、奥さんに渡す絵手紙だとか。普段、あまり表情を変えないその男性の笑顔に、木村さんもとっこり応えていました。

「絵手紙は手を動かすことがリハビリになり、集中力もつくので、高齢者には最適。木村さんのやさしい人柄もあって、皆さんとても楽しみにされている、大人気の教室です」と、同病院の濱田邦仁さんは話します。

老人ホームやデイサービスなどでも絵手紙の指導をしている木村さん。ボランティアを続けていてよかったなど、思える瞬間にたくさん出会うことができました。病気が治った喜びを絵手紙

に託して送ってきてくれる人や、「あまり話をしなくなった中学生の孫に絵手紙を出したら、会話が復活した」と、ニコニコ話してくれる人など、「私のほうこそ元気づけられている」とも。

「障害のある息子のこと、心臓ペースメーカーをつけている自分の体調など、気がかりなことも多いのですが、絵手紙はそんなことも忘れて熱中できる、かけがえのない趣味。しかも皆さんに喜んでいただけるのですから、こんなうれしいことはありません。」

書き送った人も受け取った人も、ともに幸せな気分になるという絵手紙。これからも絵手紙を通じて、「人と人をつなぐお手伝いをしていきたい」と木村さんは話します。



「ゆっくり描きましょうね」と笑顔で指導

高齢者施設で リハビリをかねて歌体操

「皆さんこんにちは！ お昼ごはんは残さず食べましたか？ それでは今日も元気に、みんなで歌っていきましょう！」。グループ「友楽」代表・西本英次さんのこんな挨拶のあと、車椅子に座ったお年よりたちも一緒に元

ときには落語や楽しいマジックも



リハビリ体操の効果は医学的にも立証されています

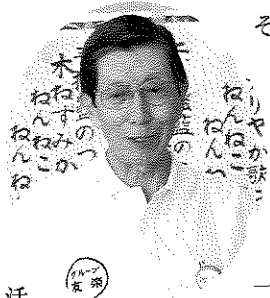
気な合唱が始まりました。

そのあとは歌体操、棒体操と続き、「東京音頭」「もみじ」「どんぐりころころ」「青い山脈」など、懐かしいメロディーが次々と歌われていきます。

ここは吹田市片山町にある介護老人保健施設。ボランティアグループ「友楽」のみなさんのリードで、リハビリを兼ねたレクレーションが毎週おこなわれます。どの顔にも笑顔があふれ、お年寄りと一緒に楽しめた楽しい歌声が響きます。

グループ「友楽」の結成は1999年。大阪府老人大学と、シルバードバイザー（以下SA）養成講座の修了生たちによって立ち上げられました。

「この施設の職員に知り合っていて、SA養成講座に通っているときから、入所者、通所者への楽しいボランティアプログラムを頼まれていたんです」と代表の西本さん。そこで同期の仲間を誘ったところ、歌体操はもちろん、手品、腹話術、落語、折り紙、ハーモニカ演奏などを趣味・特技とする「芸達者」が集まりました。



代表の西本英次さん

この日は、そんななかから城居隆さんが、得意のマジックを披露。ロープと紙コップを使ったマジックに、お年よりからは「上手やねえ」という声とともに大きな拍手が。約45分の楽しい時間は、あっという間に過ぎていきました。

老大とSAの同窓仲間だから、 チームワークは抜群

「皆さんに楽しんでほしい、ありがたいと言っていたとき、逆に私たちが元気をもらおう。それが活動を続けていくエネルギーにもなるんです」と語るの、立ち上げのときからのメンバー・栗山信子さん。そして、「みんな老大とSAの同窓仲間だから、チームワークは抜群。これも長続きの原因かもしれないですね」と語ります。

「仲間で日帰り旅行はもちろん、年に一度は一泊研修旅行もやっています。そんなときは現地の高齢者施設で活動させてもらい、高齢者の多様なニーズをリサーチします」と西本さん。その

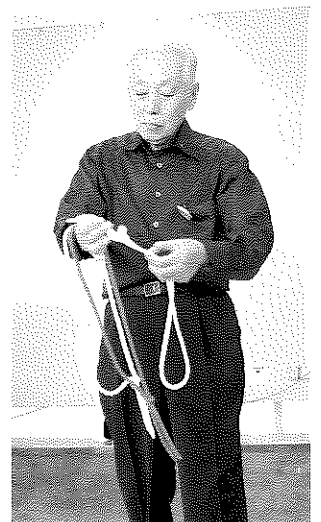
一方、ホームグラウンドともいえるべき地元の介護老人保健施設では年に数回「施設職員との懇談会」も行い、利用者さんの「より大きな満足」を実現するために、活動のレベルアップに向けた

努力も怠りません。

「実は、SA養成講座の受講中に胃がんの手術をうけ、入院したことがあるんです。そのときは、受講生仲間が大いに励まされた。そこで仲間の大切さ、励まされることのありがたさを痛感しました。そんな経験が、いまの活動につながっていると思うんです」とも語る西本さん。グループ「友楽」の代表のほか、吹田市ボランティア連絡会の副会長も務め多忙な毎日を送っています。

グループ

「友楽」のメンバーは現在15名。年齢は70代が大半ですが、芸達者な皆さんのエネルギーギッシュな活動は、くっして若者にひけをとれません。



手つきもあざやかに、楽しいマジックショー



まずは自分の趣味や特技の「棚卸し」から



肩の力を抜いて、しなやかに

今回の特集では5つの団体（個人）を紹介させていただきましたが、いずれも自分たちの「趣味や特技を生かした」ボランティア活動に取り組んでおられます。そこには「やらねばならない」といった気負いはなく、皆さん実によく、肩の力を抜いて、しなやかに活動されているのが印象的でした。

ボランティアコーディネートの際には、活動の相談に来られ方に「まず自分の棚卸しをしてみてください」と助言する場合が少なくありません。「棚卸し」とは、自分が持つ、ボランティア活動に役

立ちそうなりソース（資産や資源）を総点検してみること。そこには必ず、いくつかの趣味や特技があると思います。最初は「それをボランティア活動に生かせないだろうか」と考えればいいのではないのでしょうか。

現に、中学校で英語を教えただけが定年後、地域の子どもたちに英会話を教えていたり、あるいは日本語教室で外国からのニューカマーの若者たちに日本語を教えていたりといったケースや、コンピュータ関係の仕事をしてきた人が、地域のボランティアグループのホームページの立ち上げやメンテナンスを引き受けたり、簡単なチラシ制作をかって出たりといったケースがいろいろあります。

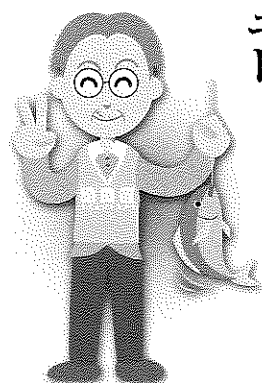
あるNPOで経理事務を担当している方は、企業の財務部で長年活躍してきた人で、いまでは他のNPO決算書類の作成も請け負っておられます。なかには大手企業での営業経験が豊富な方が、障害者授産施設の製品販売をサポートする活動を始め、売り上げを飛躍的に伸ばした、といった例もあります。

無限にある、活動のメニュー

これらは特技や仕事経験を生かした事例ですが、「趣味を生かした」事例も少なくありません。茶道や華道の趣味を生かして養護施設の子どもたちにそれを教えたり、囲碁・将棋の趣味を生かして老人ホームでお年寄りとの「対局」したり、楽器演奏や合唱指導、園芸が好きだから地域で花壇をつくる、写真が好きだから、地域の催しの撮影を担当するなど、活動の場とメニューはいくらでも広がっていくと言えるでしょう。

このように、趣味や特技は、ボランティア活動に入るための大きなきっかけとなるものであり、武器ともなるものです。ぜひ一度、自分の趣味や特技の「棚卸し」をやってみていただきたいと思います。

そしてこうした活動を始め、続けていくなかで、次のあたらしい課題やテーマが見つかるかもしれません。趣味を生かした活動は、ときに「目」「満足」という落とし穴と隣り合わせにあります。そこでは、吹田市「友楽」の西本さんが話すように「お年寄りの、より大きな満足を実現していくための活



動のレベルアップに向けた努力」が必要かもしれませんし、また他のグループとの協働で（シナジーで）、より大きな活動に発展していく可能性もあります。そんな意味からも、常に活動を「開いていく姿勢」が大切かもしれません。

そのことで、お年寄りや障害者子どもたちと「楽しい時間を共有」するだけでなく、その方たちのエンパワメント（力づけること）につながるれば、こんな素敵なことはありません。

このように、趣味や特技を生かした活動には、ときに予期せぬ「化学反応」を起こし、「楽しい時間の共有」を越えて、より大きな意味と、より大きな効果を発揮する可能性を含んでいます。「気軽に」「楽しく」そこに少し、こんな視点も加えてみれば、活動のやりがいはいくらに大きくなっていくことでしょう。

北摂

秋のバスツアー研修に行つて

―摂津市―

9月9日、秋のバスツアー研修に、京都市環境保全活動センター「京エコロジーセンター」へ行ってきました。参加者は48名で、お天気も良く、9時に摂津市役所を出発しました。

京エコロジーセンターは環境にやさしい活動の輪を広げる拠点施設で、建物自体がひとつの展示物になっていて、環境にやさしいさまざまな工夫がされた建物でした。一般の来館者もいて、ゆつくりと館内で過ごされてきました。私たちを館内案内してくださった方々は、環境ボランテ

ィア「エコメイト」の皆さんで、養成講座を修了し登録後、エコメイトとして活動し、3年の任期の後、京エコサポーターとして、地域で環境ボランティアをされています。

館内を見学した後、センターの方から環境ボランティアについてお話しいただき、摂津市にはない施設、ボランティア、とても興味深く聞かせていただきました。その後「養成講座には、何名ぐらいの応募があったのですか」と質問。その問いに「定員50名に対して100名ぐらいの応募がありました」と答えられたのを聞いて、とてもうらやましく思いました。

摂津市では、さまざまな講座を開催しても応募者が少なく、また、その後ボランティアに登録される方はもつと少なく、大きな課題になっているからです。また「男性と女性の比率がほぼ半数なのはなぜですか」という問いにも「自然とそうなっただけで特に理由はわかりません、ただこれから団塊の世代の退職者が増える中、社会に対して何かしたいと思っている男性の方が増えたのでは」というお話に、これらのことを念頭

に置いて、これからの講座を開催していきたいです。

今回の研修ツアーは、市民として、ボランティアとして勉強になりました。

河北

ボランティアフェスティバルへの取り組み

―門真市―

門真市ボランティアグループ連絡会には現在28グループが登録しています。個々のグループの活動は、手話・点字・朗読・施設訪問や介護用品の作成またマジックや環境問題への取り組みなどさまざまですが、地元ふるさと門真まつりへの参加や、防災の意識を高めるための研修会などを協力しあいながら行っています。

また年に一度の大きなイベントである、ボランティアフェスティバルは今年で第4回目をむかえ、昨年よりもさらにパワーアップしたフェスティバルにしようと、地元の高校のブラスバンドの演奏や子どもたちによる読み語り、また今年新たに連絡会の一員となった「よさこいチーム」による元気いっぱい踊りの披露に加え、地域のみなさんにボランティア活動をより知ってもらい、身近に感じてもらえるような参加型のフェスティバルにしていこうと、手話や

た。

「こんなセンターが摂津市にもあればいいな」と、思いました。

(摂津市ボランティア連絡協議会)

点字・高齢者疑似体験などを各グループが担当します。

個々のグループが自分たちの活動を越えて、一同に介する機会には本当に貴重だと思えますし、ぜひともみんなが楽しいフェスティバルになるよう準備を進めています。

(14ページをご参照ください)

(門真市ボランティアグループ連絡会)



昨年のフェスティバルの様子

河南

「ブルトッブ」を集めて 「車いす」を贈る運動

大阪狭山市

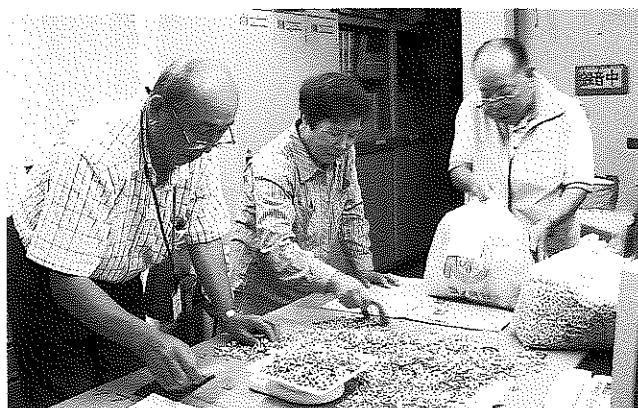
缶・スチール缶についている「ブルトッブ」を集めて「車いす」を贈る運動は、2001年、北海道江別市の野幌商店街振興組合青年部が始めてから、いま全国に広がりつつあります。

この運動に共感して、大阪狭山市ボランティアセンター所属のグループが発起人となり、平成17年1月にこの運動をスタートさせました。

1台の「車いす」を獲得するのに、缶・スチール缶についている「ブルトッブ」を600kg集めないといけません。この「手軽にできる社会貢献」が昨年、地域のミニコミ誌に掲載されてから、近くの行政機関の窓口や市民のよく利用している公民館・図書館・福祉センターなどへ直接持ち込んでくださる方々が増え、目標としていた2年を大幅に短縮して19ヵ月で待望の「車いす」が届きました。

連絡会で寄贈先の検討をした結果、第1号は「公共施設」への意見で、大阪狭山市へ寄贈することに決定しました。

小さなことの積み重ねと多くの



(大阪狭山市ボランティアグループ連絡会)

人々の協力が、いま実を結んで、発起人のボランティアグループも喜びでいっぱいです。

2台目、3台目に向かって「手軽にできる社会貢献」と「資源を大切に」するこの運動を続けていきたいと思っています。

泉州

ぼくもわたしも紙芝居屋さん 手作り紙芝居教室の子どもたちに パワーをもらって

泉南市

夏の真つ盛りの8月24日、泉南市総合福祉センターの一室は、子どもたちの歓声と拍手に沸きかえりました。

今年で4回目となる「夏休み子ども手作り紙芝居教室」の最終日。自分でお話を創り、絵を描いて作った世界でただひとつの紙芝居を、お友だちや付き添いのお母さんたちの前で発表したのです。お手伝いをする私たち紙芝居ボランティアグループ「拍子木」のメンバーもドキドキ、ワクワク！

子どもたちの発想のなんと自由なこと！。のびのびとした線、思いもよらない色使い！しり込みしていた子が大きな声で紙芝居を演じる姿を見ると、「ああ、良かったな。また頑張ろうな」と、元気が湧いてくるのです。

図書館の紙芝居の読み聞かせからスタートした「拍子木」の活動も、近年は市主催のABCまつりや地域のイベントへの参加、福祉施設への訪問、「子どもの居場所」への協力など様変わりして、活動の場がどんどん広がっています。そのなかで思うのは、一方的に楽しみを提供するのではなく、一緒に紙芝居を創り、演じあったら、もっともっと楽しいだろうということでした。



幸い、長年、「手作り紙芝居」に取り組んでこられた素晴らしい指導者を迎えることができ、「子ども手作り紙芝居教室」は誕生したのです。夏休みの4日間、3歳から中1生まで約30名が思い思いの作品を作り上げ、「箕面手作り紙芝居コンクール」で大きな賞を受賞するなど、関係者を喜ばせてくれます。

今年の作品も、ケツサク、メイサク揃い！日本特有の文化として海外でも注目され、介護の現場でも見直されている紙芝居。みなさんも創って、演じて、紙芝居を大いに楽しみませんか。

(泉南市ボランティア連絡協議会)

ZOOM UP!

ボラセンの広報誌 ①

企画から取材、編集作業を 市民ボランティアが担当

池田市ボランティアセンター「ふれあい」



すよ」と担当の社協職員、南野宏樹さん。

「ふれあい」が、「A4・4ページ、2色刷り、年4回発行（季刊）」という現在の体裁になったのは2002年の7月（26号）。しばらくは社協職員と不特定のボランティアが

制作を担当していましたが、2004年の3月（33号）からは冒頭の3人が編集作業のほとんどを担うようになりました。

ボランティア歴は15年以上という町田美樹子さんは、現在「声の図書」というグループで対面朗読、音訳テープ作成などの活動に取り組んでいます。嶋田俊子さんは拡大写本など

を作る「アイリス」のメンバーで、活動歴は12年。そして今枝有里さんは要約筆記グループ「すみれ」で活動するようになって7年目。いずれも社協ボランティアセンターの登録



団体に属するベテランボランティア。「池田市のいろんな実情もよく知ってくださっているの、何かと安心してお任せできるんです」とも南野さん。

今年の夏号（42号）では「リサイクルでボランティア」という特集を組みましたが、このときも、ゴミの有料化をきっかけに「これに関連した特集を」と3人で話し合い、市内でリサイクル活動に取り組む3団体を取材することにしました。「同じ池田で活動するボランティア仲間ということもあり、皆さん気軽に取材に応じてくださいます」とのことですが、「しかし原稿については、必ず全員で読み合わせするんですよ」と町田さん。

これは、取材した人の単純な間違いや、思い込みによる「筆の走りすぎ」をチェックするためで、「取材をしていない人の冷静な意見が加わって、はじめて読者に伝わる原稿になる」場合が少なくないと言います。

3人の年齢がばらばらなので、「三者三様の視点で話し合えるのがメリットかも」とも皆さん。全戸配布しており、現在の発行部数は4万8千部。市民が制作の中心を担うユニークなボランティア広報誌です。

池田市社会福祉協議会ボランティアセンターの広報誌「ふれあい」は、町田美樹子さん、嶋田俊子さん、今枝有里さん、3人の市民ボランティアによって作られています。「私は言ってみればオプザバー。いろんな情報を提供するだけで、特集の企画から取材、執筆にいたるまで皆さんには本当にお世話になっているんで

ZOOM UP!

ボラセンの広報誌 ②

毎号、市内の福祉施設を紹介

八尾市ボランティアセンター

「サポートやおボランティアだより」



「カットはもう少し季節感のあるものにしたいわね。」「記事の順番を入れ替えてみたら？」
 等々、メンバーはそれぞれ率直な意見を出し合っています。

3年前から活動している大下地恵子さんと去年から参加して

いる森原榮子さんは、パソコンが得意とあって主にレイアウトを担当。「私は人と話すのが苦手なので、取材は他の人にお任せしています（笑）」と語る大下さんは、点字ボランティアの活動にも取り組んでいます。

一方の森原さんは「PTAの会報や児童新聞に関わってきた経験があり、編集ボランティアの募集を知ってこの活動に参加させていただきま

した」と語ります。

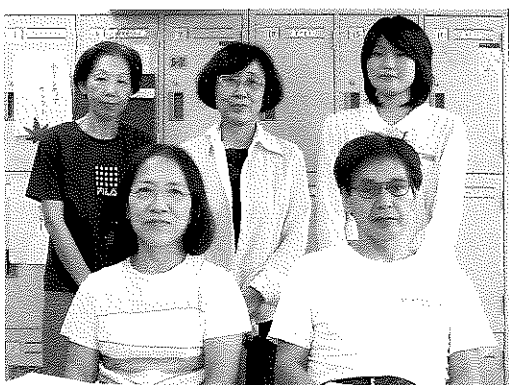
主に取材を担当するのが二葉登代子さんと尾崎光二さん。「いろんな団体や個人を取材することで、世界がどんどん広がります。それがこの活動の楽しさです」と二葉さんが言えば、「もともと文章を書くのが好きだったし、友人が障がい者施設を運営していることもあって、福祉にも興味があった。いろんな福祉イベントに参加しているうちに、編集委員になりました」と尾崎さん。

「皆さん、私が職員として八尾市社協にきたときには、すでに編集委員として活動しておられましたから私よりも先輩。いろいろ教えていただきましたながら、毎号楽しくつくっています」と語るのには社協職員の金子奈英さん。取材は基本的に社協職員の同行を原則にしているの、「市内の福祉施設の取材は、一職員としても勉強になります」とも。

モノクロでA4・4ページ（夏号のみ6ページ）の情報紙の発行部数は、現在2500部。毎号、市内の福祉施設を紹介する記事を連載しながら、年4回のペースで発行。

市内の行政機関、福祉施設などに加えて郵便局にも配布され、広く市民の目に触れるようにしています。さらに現在は「JA等に置いてもらうことも検討中」とのこと、「さらに親しみやすい紙面づくりをできない」と皆さん。

取材の日はいく、もう一人の市民編集委員の植田佐代さんはお休みでしたが、メンバーには元教員が二人いるため、「こまかな言葉づかいにも気配りをしてくださるので助かります」と金子さん。チームワーク抜群の市民編集委員の皆さんです。



池田市社会福祉協議会の広報誌「ふれあい」同様、市民が編集委員としてボランティアに制作にあたっているのが八尾市社会福祉協議会の「サポートやおボランティアだより」。毎号、発行にあたっては2・3回の編集会議をもちますが、取材の日はこの年の秋号についてのミーティングが開かれていました。

「見出しの書体を換えてみれば？」

岸和田市

福祉まつり2006

「であい ふれあい ささえあい」

手話・朗読コーナー・視覚障害者体験・ボランティアふれあい・ボランティア連絡会・移送・模擬店・陶芸体験コーナーなど。

日時 11月5日(日) 午前10時～午後4時

場所 岸和田市立福祉総合センター

問合せ 岸和田市社会福祉協議会

TEL 072(437) 8854

FAX 072(437) 1500

高槻市

第2回 「たかつきNPO協働フェスタ」

高槻のNPO活動を知ることから、活動の輪を広げ、みんなが安心して暮らせるまちづくりをめざすフェスタ。記念イベントとして桂小春園治さんの「NPO落語」を上演。

日時 11月11日(土) 午前10時45分～午後3時30分

場所 高槻市総合センター1階

問合せ 事務局 高槻市コミュニティ推進課

TEL 072(674) 7462

柏原市

第18回「柏原ふれあい広場」

かずみお姉さんのころばかばかコンサート、ミニ講演「言葉大との出会い」、いきいき歌体操、人形劇などのステージとともに、模擬店、バザーなど盛りだくさんのイベント

日時 11月19日(日) 午前10時～午後3時(雨天決行)

場所 柏原市役所駐車場一帯

問合せ 柏原市社会福祉協議会

TEL 072(972) 6786

門真市

第4回「環境を考える」ボランティアフェスティバル

日時 11月19日(日) 午前10時30分～午後3時(雨天決行)

場所 門真市リサイクルプラザ

(エコパーク)

問合せ 門真市ボランティアセンター

TEL 06(6902) 6453

枚方市

第9回「ラポールふくしフェスティバル」

ボランティアコーナー、ミニステージ、作品展、模擬店などを開催。関西外国語大学混声合唱団「ラベリテ」、子ども和太鼓チーム「雅つ鼓」が出演。

日時 11月25日(土) 午前10時～午後3時30分

場所 ラポールひろかた

問合せ 枚方市社会福祉協議会

TEL 072(845) 1602

箕面市

第41回「社協バザー」を開催

社協活動、地域福祉活動に必要な財源確保のために、バザーを開催します。物品のご寄贈もお願いします。

日時 12月10日(日) 午前10時～午後12時、午時1時～午後3時

場所 ①中小学校体育館、②東小学校

問合せ 体育館、③西南小学校体育館

箕面市社会福祉協議会 地域福祉課

TEL 072(749) 1575

FAX 072(727) 3590

泉佐野市

第28回「社協チャリティーバザー」

社会福祉関係団体や市民から提供いただいた、日用品・食料品・野菜などを市価の半額程度で販売。売上金は市民の福祉活動のために役立てられます。バザーで販売する物品(新品に限る)の提供にもご協力ください。(受付期間11月1日～30日)

日時 12月10日(日) 午前10時～

場所 社会福祉センター

問合せ 泉佐野市社会福祉協議会

TEL 072(464) 2259

東大阪市

チャリティーコンサート

「胡弓で綴る心の旋律」

広く市民にボランティア活動の輪を広げるよう理解と協力をお願いし、コンサートの収益金を「東大阪市ボランティア基金」に積み立て、ボランティア活動の振興に活用します。

日時 12月23日(祝) 午後2時開演

場所 東大阪市立市民会館市民ホール

(近鉄奈良線永和大駅すぐ)

費用 一般 前売り1800円

(当日2000円)

学生 前売り800円

(当日1000円)

問合せ 東大阪市社会福祉協議会

市民福祉活動センター

TEL 06(6789) 5550

FAX 06(6789) 5611

12月1日(金)から8日(金)まで、上町台地一帯で開催

エイブル・アート近畿2006

〈ひと・アート・まち おおさか〉

障がいのある人たちのアートを通じて、まちを人間的で豊かな空間にしていきたいことを目指す「エイブル・アート近畿2006 〈ひと・アート・まち おおさか〉」(主催:近畿労働金庫、企画:財団法人たんぼの家)が12月の1日(金)から8日(金)にかけて開催されます。

●アートリンク:12/1～5日、11:00～17:00(最終日は15:00まで) 大阪国際交流センター ●世間遺産:12/1～8日、11:00～17:00 四天王寺西休憩所&一心寺南会所 ●ごらく絵本:12/1～8日、11:00～17:00 一心寺南会所 ●現代のマンダラ:12/1～8日、11:00～17:00 一心寺南会所2階 ●フォーラム「都市と祝祭空間」:12/7日、18:30～ 應典院にて

「エイブル・アート近畿2006 〈ひと・アート・まち おおさか〉」の詳しい情報は
<http://www.rokin.or.jp>
 または 近畿ろうきん地域共生推進センター 電話06-6942-1908 まで

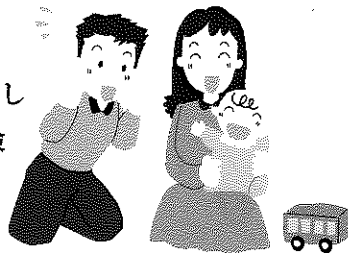


このプロジェクトで近畿ろうきんは、企業などの芸術・文化支援活動を表彰する「メセナアワード2006」において文化庁長官賞を受賞しました。

ボランティア活動保険 Q&A

ボランティア活動保険に関するご質問の中で、特にご照会の多いものについて、ご案内いたします。

Q¹ Aさんは社協の紹介で老人福祉施設のボランティアをしており、ボランティア活動保険にも加入しています。今回、友人の行う育児ボランティアにも参加することになりましたが、この場合、新しくボランティア活動保険に加入する必要があるのでしょうか。



A¹ ボランティア活動保険の対象となるボランティア活動は、次の3つの条件のいずれかを満たし、かつ無償の活動であることが必要です。

- ① 社会福祉協議会に登録されたボランティアグループがグループの会則に則り、企画立案した活動。
- ② 社会福祉協議会に届け出た活動
- ③ 社会福祉協議会から委嘱された活動

Aさんの友人の行う育児ボランティアが、上記①～③のいずれかに当てはまる場合、ボランティア活動保険では、複数の活動もまとめて補償されますので、改めてのお申込は不要です。

Aさんの友人の行う育児ボランティアが、有償の活動であったり、上記①～③のいずれにも当てはまらない場合、Aさんがすでにご加入しているボランティア活動保険ではそもそも補償されませんので、ご注意ください。

Q² 社会福祉協議会に登録をした無償のボランティア活動であっても、ボランティア保険の対象とならないものがあると聞きました。具体的にはどのようなものですか。

A² 通常のボランティア活動に比べてあまりに危険度が違いすぎる、と考えられるものは、ボランティア保険の対象外となります。具体的には、次のようなものを想定しています。



- ① 海難・山岳救助ボランティア活動
- ② 野焼き、山焼きを行う森林ボランティア活動
- ③ チェーンソーを利用する森林ボランティア活動
- ④ 銃器を利用する害獣駆除ボランティア活動

※上記のほかにも、危険度の高いスポーツを伴う活動の場合等は、別途大阪府社協までお問い合わせ下さい。

Q³ 近所の友人たちと手話通訳のボランティアを行っています。いつも私のマイカーにこの友人たちを乗せて行っていますが、往復の途上で自動車事故を起こしてしまった場合、加入しているボランティア保険でも補償されますか。

A³ ボランティア活動保険はボランティア活動に関わる往復途上の事故も補償していますが、自動車に起因する事故の場合、加入者本人（ボランティア）のケガは傷害保険部分で補償の対象となります。活動中にボランティアが起こした自動車による賠償責任事故の補償は、本保険の対象外ですので、マイカーに付帯されている自動車保険をご利用下さい。



ボランティア・市民活動保険のごあんない

引受保険会社：三井住友海上火災保険株式会社

ボランティア活動中の事故に備えて ボランティア活動保険			
補償内容	ボランティアがボランティア活動中に、①偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」、②第三者の身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」、③ボランティア活動中に死亡し、「傷害保険」の給付対象にならない場合の「死亡見舞金」の3つの制度がセットされています。		
傷害部分	本人のケガ ボランティア	Bプラン	Cプラン（天災担保）
		死亡・後遺障害 2,270万円	死亡・後遺障害 1,050万円
		入院（1日あたり）9,000円	入院（1日あたり）6,000円
		通院（1日あたり）6,000円	通院（1日あたり）4,000円
		手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額	
特定感染症	補償します	補償します	
天災	×	補償します	
賠償部分	対人	対人、対物共通 最高 5億円	
	対物		
死亡見舞金	死亡本人の	死亡 30万円	死亡 30万円
保険料	ボランティア1名 年間（中途加入でも同じ）		
	500円	700円	
加入できる人や対象となる活動	・無償であること（交通費、食事代など除く） ・自助活動ではないこと ・活動のための会議や、往復途上も含む		
保険有効期間	毎年4月1日から翌年3月31日まで （中途加入の場合は受付日の翌日から）		

各種イベント参加者の補償に ボランティア・市民活動行事保険						
補償内容		ボランティア団体や各種の市民団体が主催する行事の参加中に、①参加者が偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」と②主催者または参加者が第三者の身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」の2つの制度がセットされています。				
傷害部分	本人のケガ	I 型（宿泊なし）	II 型（宿泊あり）			
		死亡	500万円			
		後遺障害	15～500万円			
		入院（1日あたり）	3,000円			
		通院（1日あたり）	2,000円			
		手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額				
賠償部分	対人	1名あたり 1事故あたり	最高1億円 最高2億円			
	対物	1事故あたり	最高500万円			
見舞金	死亡	本人の				
保険料	I 型		II 型			
	A区分	30円	1泊2日	248円	4泊5日	328円
	B区分	130円	2泊3日	256円	5泊6日	336円
	C区分	253円	3泊4日	264円	6泊7日	344円
加入できる人や対象となる活動		ボランティア団体や市民団体が主催する行事 （スポーツ活動や自助活動も含む）				
保険有効期間		行事期間中 （開催前日までに受付が必要）				

各種NPO団体等の活動に 非営利・有償活動団体保険															
補償内容	ボランティア保険の対象外で、有償活動を行う団体が活動中に、①スタッフが偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」と②利用者などの身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」がセットされています。														
	傷害部分	本人の参加者のケガ	<table><thead><tr><th>Aプラン</th><th>Bプラン</th></tr></thead><tbody><tr><td>死亡 202万円</td><td>死亡 500万円</td></tr><tr><td>後遺障害 6～202万円</td><td>後遺障害 15～500万円</td></tr><tr><td>入院（1日あたり） 3,000円</td><td></td></tr><tr><td>通院（1日あたり） 2,000円</td><td></td></tr><tr><td colspan="2">手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額</td></tr></tbody></table>	Aプラン	Bプラン	死亡 202万円	死亡 500万円	後遺障害 6～202万円	後遺障害 15～500万円	入院（1日あたり） 3,000円		通院（1日あたり） 2,000円		手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額	
		Aプラン	Bプラン												
		死亡 202万円	死亡 500万円												
		後遺障害 6～202万円	後遺障害 15～500万円												
		入院（1日あたり） 3,000円													
	通院（1日あたり） 2,000円														
	手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額														
	賠償部分	対人	1名あたり 1億円 1事故あたり 2億円												
		対物	500万円												
見舞金	死亡本人の														
保険料	Aプラン	Bプラン													
	4,900円	6,300円													
加入できる人や対象となる活動	営利目的ではないが利用者から実費を超える報酬を得ている活動、団体														
保険有効期間	毎年4月1日から翌年4月1日まで (中途加入者は翌月15日～)														

移送サービス活動に 移送中事故傷害保険			
補償内容	移送サービス事業の活動中に、車輛に搭乗中の加入者や利用者ケガをした場合、実施主体の責任の有無に関係なく補償します。		
傷害部分	本人のケガ参加者	I 型（車輛特定）	II 型（車輛不特定）
		死亡 266.0万円	死亡 192.4万円
		後遺障害 7.9～266.0万円	後遺障害 5.7～192.4万円
		入院（1日あたり）3,000円	
		通院（1日あたり）2,000円	
		手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額	
賠償部分	対人		
	対物		
見舞金	死亡本人の		
保険料	I 型	II 型	
	2,000円 （車定員1名あたり）	2,000円 （記名利用者1名あたり）	
加入できる人や対象となる活動	移送サービスを実施するサービス実施主体の運転者、同乗のスタッフがその利用者		
保険有効期間	毎年4月1日から翌年4月1日まで （中途加入者は翌月15日～）		

市町村の社会福祉協議会へ保険料とともに申し込みください



三井住友海上火災保険株式会社

ホームページ www.ms-ins.com

大阪金融公務部 第四課 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4-4-9
TEL.06-6233-1536 FAX.06-6233-0204